

理科(生物基礎・生物) 名古屋大学 理学部、農学部、医学部、情報学部

(自然情報学科、コンピュータ科学科) (前期) 1 / 1

<全体分析>

試験時間 情報学部-自然 1科目で75分
情報学部-コン・医・理・農学部
2科目で150分

解答形式

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

昨年同様大問数は3題であった。分量は昨年と同様であったが、データの処理に手間がかかるものや、解答しにくい論述問題がみられたことから昨年よりやや難化した。

「生物」の内容からの出題中心であり、「生物基礎」の内容からの出題は非常に少なかった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 選択	遺伝子・神経	生物	(6)電位依存性カリウムチャネルについては繰り返し開閉するとあるが、電位依存性ナトリウムチャネルについては繰り返し開閉しないと考える。	やや難
II	記述 論述 選択	受容体・情報 伝達	生物	タンパク質 E は二量体を形成するとリン酸化が起こるので、図4では分子量が2倍になると考えられる。	やや難
III	記述 論述 選択	光合成	生物基礎 生物	(8)については、現系統は弱光-中位葉、新系統は強光-中位葉の項目で比較する。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単に知識を問われる問題の割合は低いが、知識に基づいた考察問題も出題されるので、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。また、文章が長く、内容も複雑なものも多いので、普段から、問題文はきちんと読むことを心掛け、問題集などを活用して実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。